

教科【美術】・種目【美術】

書名 項目	美術	9 開隆堂
内 容	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○題材に対する「学習の目標」が観点別（知、思、学）に分かれていて、それぞれ明確であり、分かりやすい。 ○題材によっては道具の使い方や要点をまとめた説明などがあり、美術の基本技能、表現技能の向上に役立てることができる。 ○美術年表が日本、中国、アジア、西洋と分かれていて幅広い美術文化を紹介している。 ○鑑賞の学習ができる作品が多く、美術を愛好する心情を育てることができる。 ○見開きページが効果的でページの構成も見やすくなっている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○題材の説明や学習のポイントが短い文章で分かりやすい。 ○ポイントとなるような参考作品の写真が大きく、表現方法の追求に繋げることができる。また、鑑賞活動にも役立てることができる。 ○「生徒作品」の数も多く、作品制作のアイデアや工夫の参考にしやすい。 ○「生徒の言葉」から、参考にできるイメージや表現、共感できる価値観や考えなど、生徒の意欲的な創造活動に生かすことができる。 ○ゴッホの自画像では、一部を「原寸大」で掲載されていてゴッホならではの筆のタッチや表現を確認することができる。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学習のポイント」の提示により、生徒一人一人の学びに繋げることができる。 ○「生徒の言葉」から、作者の考えに共感したり、自分の考えと比較したりすることで、道徳的な心の教育と結び付けることができる。 <p>＜一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○美術の新旧の作品やデザインや工芸など、興味や関心を引く充実した内容である。 ○参考作品が幅広く紹介しており、単に有名な作家の作品を鑑賞するだけでなく、普段の「生活の中の美術」を学習することができる。 ○全体的に言葉が少なめなので、スッキリとした印象がある。また、言葉に対しての理解よりも見て学ぶ、考えることに重点を置いた美術科らしい内容になっている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○2冊（1年、2・3年）構成である。 ○美術、デザイン・工芸、資料の分野別に色分けされていて確認しやすい。 ○写真や文字のレイアウトがすっきりと構成されていて、見やすい。 ○「原寸」の資料により、有名作品をより間近に感じることができる。 	
表記 ・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の目標の3観点の提示が分かりやすい。 ○「学習のポイント」は課題の方向性を確認しやすく、美術科に苦手意識をもつ生徒も主体的に学習に取り組めるヒントになる。 ○QRコードの生徒の活用は各校 ICT 環境によるが、教師が授業の中で活用できる。 ○「美術の用語」は、美術の学習として大事にしたい内容を押さえている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○ページ数は少ないが、教科書の規格が大きく、無理なく作品や説明等がページに収まっていて見やすさと分かりやすさが特徴である。 ○作品については、生徒作品から新旧の有名作品までバランスよく掲載されている。また、生活の中の美術など、幅広くとらえた内容は、新学習指導要領の美術科の目標を明確に示している。「学習の目標」「学習のポイント」など、授業の方向性を示すものであり、毎回の授業で課題の確認や振り返りに活用できる。 	

教科【美術】・種目【美術】

書名 項目	<h2 style="font-size: 2em;">美術</h2>	38 光村
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○すべての題材に造形的な見方・考え方を働かせることを促す目標を設け、美術科における知識の実感を伴う理解およびその活動につながるよう配慮されている。 ○巻末の「学習を支える資料」では、創造的スキルを伸ばし、美術史を学ぶ資料などが掲載され充実している。また、関連する題材のページには巻末資料へのリンクが示されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○多くの生徒作品を掲載するとともに、「みんなの工夫」として制作過程を紹介し、発想や構想を広げ深めることができるように工夫されている。 ○全ての題材において鑑賞活動を設定し、身近にあるものや風景、美術作品などからよさや美しさを感じ取ったり考えたりして、見方や感じ方を深められるように配慮している。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○谷川俊太郎の「うつくしい！」が教科書の冒頭や末尾に掲載されるなど、美術の学びをよりよい生き方や社会を創りあげるために生かそうとすることができるように工夫されている。 ○1年生の冒頭では小学校図工とのつながりや美術科の目標が分かりやすく書かれ、生徒が意欲的に学習に取り組む工夫がある。 <p><一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○道徳と関連する題材のページの左下には「道徳科とのつながり」というマークとともに道徳科の内容項目を示し、道徳との関連を意識して学ぶことができるように工夫されている。 ○写真やキャラクターなどに性別による偏りがなく、高齢者や子供、LGBT、障がいのある人たちなどに関連する美術の働きを掲載し、生徒が自分を含めたすべての人たちのよさを認め、多様性を尊重しながら学ぶことができるようになっている。 ○47都道府県の伝統工芸や国内の世界文化遺産を紹介するなど、日本の伝統文化への理解が深まるように配慮されている。また作った作品を飾るなど生活と美術の関連を意識する工夫がある。 ○他者と意見を交換しながら作品を作る様子があり、コミュニケーション能力の育成と言語活動の充実を図る配慮がある。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○技法や制作過程の動画などが用意され、それを活用するためのQRコードが示され、学習を支援している。 ○観音開きや、よりその作品のよさがわかる用紙の工夫、鑑賞図版の上から書き込みのできるトレーシングペーパーの綴じ込みなど、鑑賞活動が深まる工夫がある。 ○「学習をささえる資料」は生徒が参考にできるように充実した構成である。 	
表 記 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○文字が小さくなる場合は、ユニバーサルデザインフォントが使用されている。 ○図版や写真のキャプションに、材料や技法、大きさ、作者の出身地、簡潔な解説文があり、学習を進めるにあたり有効な情報がある。 ○図版と図版の間を開けたり、罫線を引いたりして境界を明確に示している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の流れを示し、一つの題材で「表現」と「鑑賞」を一体的に学べる構成になっている。 ○すべての表現題材に発想や構想の手立てを示し、一部には制作課程を詳しく紹介する題材もあり、「思考力・判断力・表現力」を育成する内容である。 ○他教科とのつながりが実感できるコラムがあり、学びを広げ「生活や社会と豊かに関わる美術科の学習」に取り組める。 	

教科【美術】・種目【美術】

書名 項目	美術	1 1 6 日 文
内 容	<p>〈知識及び技能が習得できるようにするための工夫〉 ○図版を指した具体的な問いかけを行い、造形的な視点を身に付けるためのきっかけを提示している。イメージの広がりをもつような言葉が多く使用されている。また、〔共通事項〕の内容が含まれ、深い学びにつながるように配慮されている。</p> <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉 ○主題を生み出すため生徒にとって身近な対象を扱う題材が掲載されている。 ○発想のきっかけづくりになるような活動例を、写真やスケッチと合わせて掲載し、主体的な学びへつながるように工夫されている。</p> <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉 ○授業を通して、身に付けた力を基に、生活や社会と豊かに関わる美術を扱う題材を掲載している。また、カリキュラムマネジメントの視点から、教科横断的に学びを広げ深められる構成になっている。</p> <p>〈一人一人のよさや可能性をのばすようにするための工夫〉 ○一つのテーマに対して一つの表現に限定せず、制作者の思いによって、多様な表現の可能性があると分かるように工夫されている。</p> <p>〈言語活動が充実するための工夫〉 ○全教材を通して、生徒が考えを伝えあったり、友人と相談したりしながら協働して造形活動を行う様子が紹介されている。 ○美術の学びを生かしている人々の言葉や、伝統工芸に関わる人の話を掲載するなど、思いを伝え、言葉を通して学習を深める工夫がある。</p>	
資 料	<p>○巻末に、素材や用具の種類などを掲載している。また、扱いに注意する道具などは、注目できるように配色の工夫があり、安全への配慮がされている。</p> <p>○実物に近い色味と印刷で、細かい部分まで鑑賞ができ、作品を目の前にしたような感覚で鑑賞することができる。また、原寸大や部分掲載がされており、作品を通して、生徒と作品、生徒同士の対話を促すような作りになっている。</p> <p>○題材に応じてQRコードを掲載し、表現方法や鑑賞活動が充実するような工夫がある。立体作品を360度の角度から鑑賞したり、制作手順の動画を見たりすることができる。</p>	
表 記 ・ 表 現	<p>○「何だろう？」と惹きつけられる魅力的な題材名がつけられており、3観点に基づく「学びの目標」を明記している。〔共通事項〕を意識しながら学習できるよう教科書全体に配慮している。</p> <p>○作品解説では、生徒の発想や構想に関することや鑑賞に関する資質能力の育成を支えるような内容が、具体的な文章で記載されている。</p> <p>○カラーユニバーサルデザインに配慮し、読みやすさを重視したフォントが選ばれ、誰もが見分けやすい配色やデザインの工夫がある。</p>	
総 括	<p>○表現や鑑賞の参考例となる生徒作品、活動のイメージが湧くような情景写真が多く掲載しており、生徒の主体的な学びを支える構成となっている。全体的に、明るく前向きなエネルギーを感じる動きのあるページが多い。美術を苦手としている生徒も、ワクワクするような雰囲気構成となっている。</p> <p>○短時間題材で生徒の実態や年間計画に合わせた授業が行えるように配慮している。</p>	